

東アジアと同時代日本語文学フォーラム
第6回 上海大会
2018年10月20日(土)・21日(日)
復旦大学

10月20日(土)

会場：経済学院報告庁（開会式・基調講演）
 第六教学楼（次世代フォーラム・個人発表・パネル発表）

10:00 - 12:00	開会式／記念写真 司会:李 征					
	～基調講演～ Asia as a Borrowing Index: Civilizational Transference and Colonial Modernity アジアという借りてきた指標: 文明的転移と植民地的近代 酒井 直樹(コーネル大学) 司会: 鄭 炳浩					
12:00 - 13:30	昼 食					
13:30 - 15:30	次世代フォーラム 1 会場:H6202 (司会:林 涛)	次世代フォーラム 2 会場:H6204 (司会:崔 佳亨)	次世代フォーラム 3 会場:H6205 (司会:郭 勇)	個人発表 (一) 会場:H6207 (司会:范 淑文)	パネル発表 A 森崎和江の越境する連帯の思想 会場:H6208	パネル発表 B 1930年前後のアジア女性雑誌 会場:H6209
	渡部 裕太 (立教大学大学院生) 梅崎春生「ボロ家の春秋」論 奥村 華子 (名古屋大学大学院生) 権太の在日朝鮮人 —李恢成の初期作品と炭鉱との関わりを中心— 劉 罡 (名古屋大学大学院生) 満洲引揚者をめぐる被害者言説の形成 —「支那遊記」を中心に—	市川 遥 (名古屋大学大学院生) 戦争を拒む身体物語 —文学における兵役忌避の表象を中心に— 呉 曉芸 (東呉大学大学院生) 流離人の物語 —石川達三「蒼氓」をめぐって— 王 占一 (名古屋大学大学院生) 探偵創作から国策宣伝へ —大庭武年とその「満洲国」戯曲—	常木 佳奈 (立命館大学大学院生) / 日本学術振興会特別研究員・DC 近代木版口絵研究の現在と展望 張 玉 (北京師範大学大学院生) 明治30年代の日本におけるイギリス家庭小説の受容 —『A Woman's Error』から『野の花』へ— 李 国磊 (天津外国語大学) 『箱根の坂』における漢籍の意味	陳 政君 (高雄科技大学) 谷崎文学における食 謝 惠貞 (文藻外語大学) 横光利一文学における「皮膚」作品群の成立をめぐって 李 青 (中央民族大学) 包天笑訳「鐵窗紅淚記」考 軍 援朝 (崇城大学) 半植民地の風景—「場違ひ」の西洋— —芥川龍之介が見た中国の租界—	玄 武岩 (北海道大学) 森崎和江の〈原罪を葬る旅〉 —植民者二世がたどるアジア・女性・交流の歴史— 宋 惠敬 (放送通信大学校) 「植民者二世の女の子」の朝鮮体験と植民地認識 松井 理恵 (北星学園大学) 森崎和江と大邱—『慶州は母の呼び声』を通じた連帯の可能性	飯田 祐子 (名古屋大学) 『女人芸術』と外部 張 ユリ (慶北大学校) 朝鮮の女性雑誌にみるスポーツ 楊 佳嘉 (名古屋大学大学院生) 初期『婦女共鳴』と外国の繋がり ディスカッサント: 呉 佩珍 (政治大学)
15:30 - 16:00	休 憩					
16:00 - 18:00	次世代フォーラム 4 会場:H6202 (司会:李 承信)	次世代フォーラム 5 会場:H6204 (司会:杉本 章吾)	次世代フォーラム 6 会場:H6205 (司会:坂元 さおり)	個人発表 (二) 会場:H6207 (司会:林 雪星)	パネル発表 C 越境する日韓の映像コンテンツ —「レンタル」から「シェア」へ 会場:H6208	パネル発表 D 東南アジアと日本(語)文学 会場:H6209
	高畑 早希 (名古屋大学大学院生) 宮沢賢治「チュウリップの幻術」論 —洋傘直しと園丁の遭遇が示すこと— 郭 瀾頌 (同済大学大学院生) 芥川における上海と北京との比較 —「支那遊記」を中心に— 李 詰兮 (復旦大学大学院生) 小僧は神様なのか? —志賀直哉「小僧の神様」試論— 朱 一飛 (復旦大学大学院生) 田山花袋『少女病』 —電車を妄想のプライベート空間へ—	黄 千鳳 (東呉大学大学院生) 細田守のライトノベル作品における間テクスト性 —『おおかみこどもの雨と雪』を中心に— 林 姿萱 (東呉大学大学院生) 柳広司「ジョーカー・ゲーム」シリーズにおけるスパイ像 —「幽霊」、「ワルキューレ」、「アジア・エクスプレス」を中心に— 李 貞和 (高麗大学大学院生) 現代日本のプレカリアート文学と市民の文学活動 —(神保町小説アカデミー)と〈路上文学賞〉を中心に— 南 有玖 (高麗大学大学院生) 異世界ものライトノベルと現代日本若者 —2010年代ウェブ小説作品を中心に—	程 颯涵 (東呉大学大学院生) 台湾文学において描写された原住民像をめぐり —佐藤春夫の『霧社』、大鹿卓の『野蛮人』、中村地平の『霧の番社』を中心に— 駒居 幸 (筑波大学大学院生) 日本文学作品における新宗教の表象 —東アジアをめぐる記憶との関係性に着目して— 唐 楚輝 (広東外語外貿大学大学院生) 中日現代文学における「中国残留日本人孤児」の人物像について —『大地の子』と『小姨多鶴』を中心に— 劉 東波 (日本学術振興会特別研究員・DC) 松岡譲『敦煌物語』論 —立花の西域探検—	中根 隆行 (愛媛大学) 森崎和江と柳田国男 —植民者二世の戦後— 日比 嘉高 (名古屋大学大学院) 「満洲」における書籍流通 —満洲書籍配給株式会社以前、以後— 片 龍雨 (全州大学校) 災害演劇の意味	芳賀 恵 (北海道大学大学院) リメイクドラマにみる物語と文化の「シェア」 張 慶在 (広島大学大学院) 平 侑子 (北海道大学大学院生) 日韓間の映像コンテンツの越境における「レンタル」と「返却」 アントニウス・ブジョ (インドネシア・アイルラング大学) 神保光太郎の『南方詩集』における作家の展望と真相 阮 英俊 (ベトナム・ハノイ国家大学) Translations and studies of Japanese literature in Vietnam 司会: 鄭 炳浩 / コメンテーター: 阮 文雅	

東アジアと同時代日本語文学フォーラム
第6回 上海大会
2018年10月20日(土)・21日(日)
復旦大学

会場：光華楼13楼報告庁（シンポジウム）
 第六教学樓（次世代フォーラム・個人発表・パネル発表・閉会式）

10月21日(日)

9:30 - 11:30	～シンポジウム～ 「レンタル」と近現代東アジア文化 司会: 俞 在真 / コメンテータ: 石川 巧 李香蘭映画と朝鮮、台湾、上海 植民地時代朝鮮半島における日本語雑誌・二重言語文学と租界都市上海 反転するモダニズム——租借地大連の文化空間1905～1945 生島治郎が描く「傷痕」としての「租借地・上海」——「もう一つの戦後文学」としての「ハードボイルド・ミステリ」——					
11:30 - 13:00						
13:00 - 15:00	次世代フォーラム 7 会場: H6202 (司会: 邱 雅芬)	個人発表 (三) 会場: H6204 (司会: 中根 隆行)	個人発表 (四) 会場: H6205 (司会: 尾崎 名津子)	個人発表 (五) 会場: H6208 (司会: 単 援朝)	パネル発表 E 東洋の文化的空間 会場: H6312	パネル発表 F 『京城日報』と混交する 日本語文学・文化研究 会場: H6209
	涂 韻安 (東呉大学大学院生) 司馬遼太郎『燃えよ剣』における「男の典型」 —土方歳三を中心に— 種 茗 (立命館大学大学院生) 中島敦「弟子」試論 フィトリアナ・プスビタ・デウィ (立命館大学大学院生) ボルネオ島における従軍慰安婦について —林芙美子『ボルネオダイヤ』とエ・ロカ ジャット・アスラ『Jugun lanfu: Jangan Panggil Aku Miyako』(従軍慰安婦: 私 を「ミヤコ」と呼ぶな)の比較 陳 鵬安 (北京師範大学大学院生) 重訳における「恩」の構造の転換 —『伏黒奴』を中心に—	陳 愛華 (重慶大学) 戦時下にかかれた田中英光の『我が西遊記』 —魯迅の「遊戯」観の受容を中心に— 中野 綾子 (明治学院大学) 探偵小説の行方 —慰問雑誌『陣中倶楽部』『戦線文庫』の 掲載状況— 阪本 博志 (宮崎公立大学) 出版メディアの「送り手」の戦中と戦後 —大宅壮一『この目で見たソ連』(光文社 [カッパ・ブックス]、1962年)をめぐる て— 呉 佩珍 (政治大学) 一九二〇～一九三〇年代における日本演劇 運動と東アジア左翼文芸思潮 —秋田雨雀、田漢と呉坤煌を中心に—	王 志松 (北京師範大学) 装幀と挿絵というコンテクスト —中国における夏目漱石文学受容の一側面 丹波 江里佳・丹波 秀夫 (復旦大学) 森岡外「高瀬舟」における喜助の行為の 「罪」性を考える 王 菁潔 (復旦大学) 露伴『幽情記』における「武臣」	呉 佩軍 (華南師範大学) 横光利一『上海』における白系ロシア人の 表象 陳 文 (四川師範大学) 武田泰淳『上海の蜚』論 林 涛 (北京師範大学) 中国における武者小路実篤「桃源にて」の 翻訳・改作・公演 (一) 一田漢訳「桃花源」とその公演を中心とし て 陳 晨 (上海師範大学) 「境界的物語」としての日本語文学 —在日華人女性作家作品から浮かび上がる (接触)と(共生)を読む	徐 静波 (復旦大学) 武田泰淳の中国との縁及び彼の描かれた上 海のイメージ 銭 曉波 (東華大学) 穆時英の死と日本文壇 —『文学界』の「穆時英追悼特集」を中 心に 郭 勇 (上海師範大学) 中島敦における朝鮮体験及びその文学との 関係 呂 慧君 (太原理工大学) 内山完造の中国語メディアにおける受容	金 孝順 (高麗大学校) 『京城日報』における菊池寛の文学活動研 究 —1930年と1940年の講演旅行を中心に— 姜 元珠 (高麗大学校) 『京城日報』における時代小説の様相研究 —多様な武士像を中心に— 李 賢珍 (高麗大学校) 『京城日報』における軍事お伽ばなし イム・ダハム (高麗大学校) 植民地朝鮮における映画文化の形成と『京 城日報』
15:00 - 15:30	休 息					
15:30 - 17:30	個人発表 (六) 会場: H6202 (司会: 徐 静波)	個人発表 (七) 会場: H6204 (司会: イム・ダハム)	個人発表 (八) 会場: H6205 (司会: 金 孝順)	パネル発表 G 到来する動物(たち)／亡霊(たち) —脱人間中心主義的文学研究のために 会場: H6208	パネル発表 H 租界地・上海 会場: H6312	パネル発表 I 朝鮮半島における 日本語民間新聞と日本語文学 会場: H6209
	范 淑文 (台湾大学) 『三四郎』『それから』の関連性 —「レンタル」の視座より 石川 隆男 (台湾大学) 「借」という意識の芽生え —台湾生まれの作家が描いた世界をめぐる て— 阮 文雅 (東呉大学) 借用させられた教養 —台湾日本語世代の文芸作品を例に 山本 幸正 (復旦大学) 占領下は「レンタル」か？ —小島信夫「アメリカン・スクール」を起 点にして—	李 郁蕙 (広島大学) 文学から見る1940年代の台湾における ファッションの表象 簡 中昊 (屏東大学) 「国球・野球」をめぐる想像力 一日台テキストに「八百長問題」はどう描 かれたか— 成 忠範 (漢陽大学) 東宝の特撮技術と韓日映画交流・関係史の 様相 崔 佳亨 (三育大学校) 金 嶽敏 (高麗大学校) 震災後の詩の言葉と共同性 —東日本大震災と四川大地震発生以降の震 災詩を中心に—	杉本 章吾 (高麗大学校) 占領期ヒーローとしてのターザン —横井福次郎のターザン漫画を中心に— 邱 雅芬 (中国社会科学院) 安部公房の「砂漠の思想」その満州体験と 一日台テキストに「八百長問題」はどう描 かれたか— 尹 鎬淑 (サイバー韓国外国語大学校) 韓国の近代小説に見られる日本語の影響 祝 然 (第一作者・発表者) 李 晶 (第二作者) (大連外国語大学) 「満州作家」竹内正一の三重身分	武内 佳代 (日本大学) 動物と亡霊の饗宴 —澁澤龍彦「高丘親王航海記」にみるメタ フィクション 高木 信 (相模女子大学) 殺し隨地獄する眞師／殺され語られる動 物、謡曲《善知鳥》論を始発として —死者が語る喪われたものたちの記憶 堀井 一摩 (津田塾大学) 反復強迫する動物 —夢野久作『ドグラ・マグラ』におけるナ ショナリズム 村上 克尚 (日本学術振興会特別研究員) 動物の沈黙、死者の沈黙 —津島祐子『黙市』の連作について	李 征 (復旦大学) 穆時英と池谷新三郎とのつながり 林 雪星 (東呉大学) 林京子の「上海」と「長崎」 波瀲 剛 (九州大学) 阿部知二とエキジティシズム —アフリカ、中国、南洋	俞 在真 (高麗大学校) 租界地釜山の日本語民間新聞『朝鮮日報』 の文芸物と日露戦争 李 承信 (高麗大学校) 朝鮮半島刊行日本語新聞における昔話研究 李 炫熹 (高麗大学校) 朝鮮半島で発行された日本語新聞『朝鮮新 聞』の文芸物研究 —「探偵奇談 第二の血痕」を中心に— 金 寶賢 (高麗大学校) 植民地時代韓半島における初期日本伝統詩 歌の動向と「時事俳句」 —『京城新報』(1907～1912)を中心に—
17:30 -	閉会式 司会: 波瀲 剛					